

3

学長インタビュー

山口大学のめざすもの

山口大学長 岡 正朗



インタビュアー

新井 道子

(エフエム山口アナウンサー／山口大学卒業)



— 山口大学は私の母校でもありまして、今日は、学長であり母校の大先輩でもある岡学長にお話をうかがうということで、たいへんうれしく思っています。学長、今日はたいへんすてきなファッションですが、シャツの胸元についているこのキャラクターは……。

山口大学のキャラクター「ヤマミィ」です。山大をより身近に感じてもらおうと作成されたキャラクターで、さまざまなグッズに登場しています。

— さて、今年4月に山口大学第13代の学長に就任されて、生活は変わられましたか？

以前は外科医としての仕事が主でしたが、それができなくなったということがいちばん大きな変化ですね。そのかわり、吉田キャンパスに移って多くの学生と接するようになりました。今、とても新鮮な気持ちで日々を過ごしています。

— 就任に当たって、県内の市長、町長さんに会われたとか。

はい。県内の首長さんのところにご挨拶に行き、学生を山口県の中で育てたい、市町に飛び出して学習をさせていきたい、とお話してきました。山口大学を、「山口県にある大学」ではなくて「山口県の大学」にしたいと思うからです。

— 「山口県にある大学」ではなく「山口県の大学」。どう違うのでしょうか？

地域の皆さんに、本学が山口県にとって必要な大学だと思っていただくということです。それには地域連携が非常に重要です。また、山口大学の卒業生は地元への就職率が意外にも高くないのですが、卒業後、地元でも力を発揮できる人材を育てたいと思っています。

— 学長は本学の卒業生でもいらっしゃいますが、学生時代はいかがでしたか？

悲惨でしたよ(笑)。私が入学したときは学生運動がたいへん激しい時代で、授業をあま

り受けられませんでしたから。しかし社会に対する若者の反発が表に出た時代であり、学生たちに共感する部分もあったと思います。

— 一方、今の学生さんをどのようにお感じになりますか？

「知の広場」という学術講演の場で、1年生に講義をする機会がありました。そのとき、学生のレポートを400枚くらい読んだのですが、たいへん「ピュア」なものを感じました。9割くらいの学生が「自分も一生懸命勉強しなければいけないと思う」とか「人のために役立つ人間になりたい」といったことを書いているのですね。このようなピュアな心をもった学生の白いキャンバスに、4年間でどのような絵を描かせていくか、学長としての責任を強く感じました。



— そのような学生に向けて入学式でおっしゃったのが、「ここで輝け! 君が輝け!」という言葉。とても印象に残りました。

入学式では、「山大スピリット」についてもお話ししました。「山大スピリット」とは「共同・共育・共有の精神」です。あわせて人間力とチャレンジ精神を持つ人材を育てることが本学の使命と考えています。



— 山口大学は、2015年に創基200周年を迎えます。今、どのような想いを抱いていらっしゃいますか？

私自身、学生ときは大学の歴史をよく知りませんでした。しかしいろいろ勉強してみると、長い歴史のある素晴らしい大学だなということを強く感じています。多くの学生からも「誇りをもって学びたい」という言葉が出てきています。「奢り」ではなく、「誇り」。山口大学生であるという誇りを忘れず、成長していったほしいと願っています。

— 創基200周年に向けては、数々の取り組みが進行中です。

まず、「ホームカミングデー」というのを始めました。これは卒業生や大学にゆかりのある方をキャンパスにお招きし、学生がお迎えするもので、今年は10月4日(土)に行う予定です。パネルディスカッションのほか、楽しいイベント

も予定しています。

また記念事業として「山口大学基金」を創設し、広く寄附を集めています。基金の目的の一つは、経済的に苦しい中で学んでいる学生の支援、もう一つは、山口大学の学生を海外に留学させ、海外からの留学生を山口大学に迎えるための支援です。海外からの「アジアの風」と山口の「維新の風」が混ざり合う、そんなキャンパスができればいいと思います。

— 新学部の開設など、今後予定されている計画もありますね。

今は大学が変革を求められている時代です。さまざまな国の人たちが日本に来るようになり、宗教や文化などいろいろなものが変わっていく。その中で、大学には新たな役割が求められています。また少子高齢化の中で、広く世界から学生を集めるということも必要になってくるでしょう。当然、大学のグローバル化は避けて

通れません。

そうした変化に対応するため、「国際総合科学部」の新設を計画しています。いま申請中で、許可されれば来年4月からスタートします。

この国際総合科学部の特徴は、学生に1年間の留学を義務づけることです。すでに学生100人以上についての受け入れ先を確保しました。一方で、海外から100人の留学生を受け入れます。この学部で育成したいのは、「課題解決型」人間です。地域での実習や海外での経験を通して学び、海外と日本、企業と他の企業、市町と他の市町を結びつけることができる、コーディネーターのような人材。また科学部としているように、理系の授業も文系の授業も受ける、そういう文理融合型の人材の育成を目指します。これは全国的にも先進的な取り組みで、これによって生まれる人材に、大いに期待を寄せています。山口大学にはこれまでも「東アジア研究科」など、海外を視野にいたしたさまざまな取り組みを行ってきた歴史があります。その意味でも、山口大学の特徴を最大限に活かせる構想ではないかと私は思っています。



— 山口大学の特徴というお話が出ましたが、なかでも「これが強みだ」と思われるものは何でしょうか？

やはり「総合大学」だということでしょうね。現在8学部9研究科があり、学生数は1万を超

え、国立大学法人中、16位ぐらいの規模です。文系から理系まで、いろいろなタイプの先生がいることから、学際的な教育というか、フレキシブルな教育ができます。

一方、大学においては研究もたいへん大事な使命です。たとえば私は医学部ですが、医学の分野だけで研究ができるという時代は、もう終わっていて、工学部や農学部などと一緒に研究が重要な位置を占めています。獣医学部のある国立大学は非常に少ない中で、本学には鹿児島大学との共同獣医学部があります。医学部と獣医学部の連携を強くするなかで、いろいろなことができるはずです。このような総合大学の強みを活かしていけば、人材育成と研究、そして地域貢献において、成果を上げることができるはずです。

山口大学は各学部が分散していますが、むしろだからこそ、それぞれの学部が独自性をもって発展してきた、と言うこともできます。

— それでは最後に、岡学長が、学長というお立場から山口大学にかけるお気持ちを伺いたいと思います。漢字一字で表すとなると、何でしょうか？

私は山口大学が大好きなのです。ですから、やはり「愛」、愛情の「愛」ですね。

これからも「山口県の大学」として、学生、卒業生、地域の方など多くの人々に、山口大学の「愛」を伝えていきたいと思っています。

— 今後の山口大学に期待しています。

(平成26(2014)年6月4日実施)